

2009年1月5日

宇宙開発戦略本部長

内閣総理大臣 麻生太郎 様

## 高エネルギー宇宙物理連絡会からの要望書

高エネルギー宇宙物理連絡会

会長 栗木久光

高エネルギー宇宙物理連絡会は、高エネルギー宇宙物理学の研究の発展を目的に設立された、主に、科学衛星などの飛翔体を用いてX線やガンマ線で宇宙を観測している研究者を母体とする連絡会です。これまで、宇宙科学の発展のために、飛翔体や観測所を利用し、国際的な研究成果を公表するとともに、科学衛星の開発／製作、運用に深く関わり、最先端技術の開発と次代を担う人材の育成も行って参りました。

2008年8月の宇宙基本法施行を受けて、宇宙開発利用基本計画の策定が始まりました。

宇宙科学は、科学衛星等の飛翔体の開発（工学）ならびにそれを利用した基礎科学（理学）とが密接な協力関係のもと発展してきました。世界的研究の最前線を推進するという明確な目的のもと、常に高度に先進的かつ革新的な技術を宇宙観測に導入し、そして、過酷な宇宙環境に耐え得る信頼できる機器等の開発を行ってきました。このように、日本初の人工衛星打ち上げ以来、宇宙科学はこれまで常に宇宙開発利用の先導役を果たしてきました。この間、宇宙開発利用を担う多くの人材を育成し、多大な貢献をしています。また、宇宙科学は、その成果が特定の国に属さない人類共通の財産であるため、国際協力を推進し国際社会に積極的かつ明示的に貢献できる分野であります。事実、我が国の宇宙科学は国際的社会からその貢献を高く評価されています。我々は、このように宇宙科学が宇宙開発利用の中で中心的役割を果たすものであると考えております。

基本計画の策定にあたり、この宇宙科学に従事している研究者の考えを反映していただきたいと考え、貴本部、貴調査会に対して高エネルギー宇宙物理連絡会から次の要望をいたします。

#### 1. 新機構内での宇宙科学推進

宇宙基本法第一章第五条で謳っているように、宇宙に係る知識の集積は人類にとっての知的資産であります。今後の日本の宇宙活動の中で、宇宙基本法の柱の一つであるこの理念が、より強化されるような枠組みが確保されることを要望します。

#### 2. 研究者の自由な発想を施策決定に反映させる体制

私たちは想像力と自由な発想で宇宙に挑み、宇宙に係る人類の知的財産を拡大してきました。この研究者の自由な発想に基づく競争と協力の原則を宇宙科学推進の施策決定に反映させる仕組みを要望します。

#### 3. 国際社会、産業界との協力関係の促進

我々の住む宇宙を解明するには、先人がそうであったように、私たち人類の持っている知識と技術を総動員し、研究にあたる必要があります。宇宙科学推進に必要な科学技術・人材等において、国際社会ならびに、産業界と円滑な協力関係を結ぶことができるよう、必要な施策を講ずることを要望します。

#### 4. 中核研究機関の設置と大学等との連携協力体制

国際社会において積極的に知的貢献を行い、宇宙科学において我が国の地位を向上させるには、宇宙科学を推進する中核研究機関を設置し、その中核機関と大学等との密接な連携協力が必要です。宇宙科学研究所からJAXAへと継承された「大学との堅密な連携協力体制」を維持／発展させることを要望します。

#### 5. 宇宙科学に対する教育ならびに啓蒙活動の充実

宇宙は科学の壮大な実験室であり、現在も人類に多くの知的資産を与えています。また、宇宙を考えると、人類は、国や地域を越え、地球人として生命と地球を考えることができます。このように多くの知的恩恵を与えてくれる宇宙に関して、今後も国民が理解と関心を深めることができるよう、宇宙科学に関する教育、学習の振興ならびに広報活動の充実等の必要な施策を講ずるよう要望します。